

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 4 部門第 1 区分
【発行日】 令和 7 年 4 月 4 日(2025.4.4)

【公開番号】 特開 2023-178774(P2023-178774A)
【公開日】 令和 5 年 12 月 18 日(2023.12.18)
【年通号数】 公開公報(特許)2023-237
【出願番号】 特願 2022-91661(P2022-91661)
【国際特許分類】
E 06 B 9/52(2006.01)
【FI】
E 06 B 9/52 E

10

【手続補正書】
【提出日】 令和 7 年 3 月 27 日(2025.3.27)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】
【請求項 1】

左右の縦枠杆及び上下の横枠杆からなる矩形のスクリーン枠に嵌め殺し状態に張設するためのスクリーンであって、

前記スクリーンは、左右の縦辺に取り付けられた左右の縦取付部材、及び、上下の横辺に取り付けられた上下の横取付部材を有し、前記縦取付部材及び横取付部材は、並行する一対の弾性係止片が形成された板状のプレート部と、前記スクリーンに取り付けるための帯状をした取付部とを有していて、該取付部に、前記スクリーンの張設時に弾性的に屈伸して該スクリーンに張力を付与する弾性屈伸部が形成され、前記左右の縦取付部材に形成された一対の弾性係止片を、前記スクリーン枠における左右の縦枠杆の係止溝に係止させると共に、前記上下の横取付部材に形成された一対の弾性係止片を、前記スクリーン枠における上下の横枠杆の係止溝に係止させることにより、前記弾性屈伸部の弾性的な屈伸により左右方向及び上下方向の張力を付与された状態で前記スクリーン枠に張設可能なるように構成されている、

30

ことを特徴とするスクリーン枠に取り付けるスクリーン。

【請求項 2】

前記弾性屈伸部は、前記取付部の一部に屈曲癖を付けることにより形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載されたスクリーン。

【請求項 3】

前記縦取付部材及び前記横取付部材における一対の弾性係止片は、前記プレート部に連なる脚部と、該脚部の先端に該脚部に対して傾斜した状態に連なる頭部とを有し、該頭部が前記スクリーン枠の前記係止溝に係止することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載されたスクリーン。

40

【請求項 4】

前記縦取付部材又は横取付部材に形成された一対の弾性係止片の 2 つの頭部は、互いに同じ方向に傾斜していることを特徴とする請求項 3 に記載されたスクリーン。

【請求項 5】

前記 2 つの頭部のうち、先端が前記係止溝の内側を向く方向に傾斜する頭部の基端部には、該頭部を傾斜方向に延長することにより顎部が形成され、該顎部が前記係止溝の溝縁に係止することを特徴とする請求項 4 に記載されたスクリーン。

50

【請求項 6】

前記左右の縦取付部材及び上下の横取付部材の何れか一方又は両方には、前記一对の弾性係止片の長さ方向の両端部を部分的に切除することにより、前記一对の弾性係止片がプレート部に形成されていない係止片切欠部が設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載されたスクリーン。

【請求項 7】

左右の縦枠杆及び上下の横枠杆からなる矩形のスクリーン枠に、請求項 1 から 6 の何れか 1 項に記載のスクリーンを嵌め殺し状態に取り付けるスクリーンの取付構造であって、
前記スクリーン枠における前記左右の縦枠杆の互いに対向する内向面、及び、前記上下の横枠杆の互いに対向する内向面に、それぞれ前記係止溝が形成され、
前記左右の縦取付部材における前記一对の弾性係止片を、前記左右の縦枠杆の前記係止溝に係止させると共に、
前記上下の横取付部材における前記一对の弾性係止片を、前記上下の横枠杆の前記係止溝に係止させることにより、
前記スクリーンを前記スクリーン枠に、前記弾性屈伸部の弾性的な屈伸により左右方向及び上下方向の張力を付与した状態に取り付け可能とした、

10

ことを特徴とするスクリーン枠に対するスクリーンの取付構造。

【請求項 8】

左右の縦枠杆及び上下の横枠杆からなる矩形のスクリーン枠に、請求項 1 から 6 の何れか 1 項に記載のスクリーンを嵌め殺し状態に張設してなるスクリーン装置であって、
前記スクリーン枠における前記左右の縦枠杆の互いに対向する内向面、及び、前記上下の横枠杆の互いに対向する内向面に、それぞれ前記係止溝が形成され、
前記左右の縦取付部材における前記一对の弾性係止片を、前記左右の縦枠杆の前記係止溝に係止させると共に、
前記上下の横取付部材における前記一对の弾性係止片を、前記上下の横枠杆の前記係止溝に係止させることにより、
前記スクリーンが、前記弾性屈伸部の弾性的な屈伸により左右方向及び上下方向の張力を付与された状態で前記スクリーン枠に張設されている、

20

ことを特徴とするスクリーン装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

30

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

また、本発明によれば、左右の縦枠杆及び上下の横枠杆からなる矩形のスクリーン枠に、請求項 1 から 6 の何れか 1 項に記載のスクリーンを嵌め殺し状態に取り付けるスクリーンの取付構造が提供される。

前記取付構造において、前記スクリーン枠における前記左右の縦枠杆の互いに対向する内向面、及び、前記上下の横枠杆の互いに対向する内向面に、それぞれ前記係止溝が形成され、前記左右の縦取付部材における前記一对の弾性係止片を、前記左右の縦枠杆の前記係止溝に係止させると共に、
前記上下の横取付部材における前記一对の弾性係止片を、前記上下の横枠杆の前記係止溝に係止させることにより、
前記スクリーンを前記スクリーン枠に、前記弾性屈伸部の弾性的な屈伸により左右方向及び上下方向の張力を付与された状態に取り付け可能としている。

40

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

更に、本発明によれば、左右の縦枠杆及び上下の横枠杆からなる矩形のスクリーン枠に

50

、請求項 1 から 6 の何れか 1 項に記載のスクリーンを嵌め殺し状態に張設してなるスクリーン装置が提供される。

前記スクリーン装置において、前記スクリーン枠における前記左右の縦枠杆の互いに対向する内向面、及び、前記上下の横枠杆の互いに対向する内向面に、それぞれ前記係止溝が形成され、前記左右の縦取付部材における前記一对の弾性係止片を、前記左右の縦枠杆の前記係止溝に係止させると共に、前記上下の横取付部材における前記一对の弾性係止片を、前記上下の横枠杆の前記係止溝に係止させることにより、前記スクリーンが、前記弾性屈伸部の弾性的な屈伸により左右方向及び上下方向の張力を付与された状態で前記スクリーン枠に張設されている。

【手続補正 4】

10

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

また、本発明において、前記左右の縦取付部材及び上下の横取付部材の何れか一方又は両方には、前記一对の弾性係止片の長さ方向の両端部を部分的に切除することにより、前記一对の弾性係止片がプレート部に形成されていない係止片切欠部が設けられていることが望ましい。

【手続補正 5】

20

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

前記スクリーン枠 3 は、図 1、図 9 及び図 10 から明らかなように、アルミニウム合金製の左右の縦枠杆 3a、3b 及び上下の横枠杆 3c、3d によって矩形枠状に形成され、建物開口部の前記障子 4 より室内側の位置に配設されている。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

30

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

前記左右の縦枠杆 3a、3b の互いに対向する内向面 3e には、図 2 から明らかなように、前記スクリーン 1 の左右の縦辺 1a、1b に取り付けられた縦取付部材 8 を係止させるための縦係止溝 6 が、該縦枠杆 3a、3b の全長に渡ってそれぞれ形成され、前記上下の横枠杆 3c、3d の互いに対向する内向面 3e には、図 3 から明らかなように、前記スクリーン 1 の上下の横辺 1c、1d に取り付けられた横取付部材 9 を係止させるための横係止溝 7 が、該横枠杆 3c、3d の全長に渡ってそれぞれ形成されている。

40

なお、以下の説明においては、前記縦係止溝 6 及び横係止溝 7 を、単に「係止溝」と呼ぶこともある。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

前記一对の弾性係止片 12a、12b は、前記プレート部 10 の外側面 10a に連なる脚部 13 と、該脚部 13 の先端に該脚部 13 に対して傾斜した姿勢で連なる頭部 14a、

50

1 4 b とを有し、該頭部 1 4 a , 1 4 b が前記縦係止溝 6 の溝縁 6 a に係止するものであり、前記一对の弾性係止片 1 2 a , 1 2 b に形成された 2 つの頭部 1 4 a , 1 4 b は、互いに同じ方向に傾斜している。また、前記 2 つの頭部 1 4 a , 1 4 b のうち、一方の弾性係止片 1 2 a に先端が前記縦係止溝 6 の内側を向くように形成された頭部 1 4 a の基端部には、該頭部 1 4 a を傾斜方向に延長することにより顎部 1 4 c が形成され、この顎部 1 4 c が前記縦係止溝 6 の溝縁 6 a に係止するようになっている。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

前記 2 つの頭部 2 4 a , 2 4 b のうち、一方の弾性係止片 2 2 a に先端が前記横係止溝 7 の内側に向けて傾斜するように形成された頭部 2 4 a の基端部には、該頭部 2 4 a を傾斜方向に延長することにより係止用の顎部 2 4 c が形成され、この顎部 2 4 c が前記横係止溝 7 の溝縁 7 a に係止するようになっている。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 7】

前記一对の弾性係止片 2 2 a , 2 2 b を前記横杵杆 3 c の横係止溝 7 に係止させるときは、該一对の弾性係止片 2 2 a , 2 2 b の頭部 2 4 a , 2 4 b を前記横係止溝 7 内に挿入し、そのまま該係止溝 7 内に強く押し込むようにする。そうすると、前記一对の弾性係止片 2 2 a , 2 2 b が、互いの間隔が狭まる方向に一旦弾性変形したあと、頭部 2 4 a , 2 4 b 全体が前記横係止溝 7 内に挿入されることにより復元し、前記頭部 2 4 a , 2 4 b が前記横係止溝 7 の溝縁 7 a に弾性的に係止する。このとき、前記プレート部 2 0 は、前記横杵杆 3 c の内向面 3 e に当接することによって前記横係止溝 7 を塞ぎ、虫が進入する隙間の形成を防止する。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 0】

このように、前記スクリーン 1 の左右の縦取付部材 8 , 8 の取付部 1 1 及び上下の横取付部材 9 , 9 の取付部 2 1 にそれぞれ弾性屈伸部 1 5 及び弾性屈伸部 2 5 を設けたことにより、前記スクリーン 1 を前記スクリーン枠 3 に張設する際に、前記弾性屈伸部 1 5 , 2 5 の弾性的な屈伸によって該スクリーン 1 に左右方向及び上下方向の張力が自動的に付与されることになり、その結果、該スクリーン 1 を、前記スクリーン枠 3 に皺や弛み等が生じない状態に簡単に張設することができる。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

ここで、前記構成を有するスクリーン 1 を前記スクリーン枠 3 に張設するときは、例えば図 6 及び図 8 に示すように、始めに、上下の横取付部材 9 , 9 にそれぞれ形成された一

10

20

30

40

50

対の弾性係止片 2 2 a, 2 2 b を、上下の横枠杆 3 c, 3 d の横係止溝 7, 7 内に押し込んで 2 つの頭部 2 4 a, 2 4 b を該横係止溝 7 の溝縁 7 a に弾力的に係止させたあと、左右の縦取付部材 8, 8 に形成された一対の弾性係止片 1 2 a, 1 2 b を、図 4 に示すように、前記左右の縦枠杆 3 a, 3 b の縦係止溝 6, 6 内に押し込んで頭部 1 4 a, 1 4 b を該縦係止溝 6 の溝縁 6 a に弾力的に係止させるようにするが、その際、前記左右の縦取付部材 8, 8 の全長に渡って一対の弾性係止片 1 2 a, 1 2 b が形成されていると、該縦取付部材 8, 8 の上下両端部付近において、前記弾性係止片 1 2 a, 1 2 b が縦枠杆 3 a, 3 b に強く接触して不規則に変形させられるため、該弾性係止片 1 2 a, 1 2 b を前記縦係止溝 6, 6 内に押し込むことが困難になる。

【手續補正 1 2】

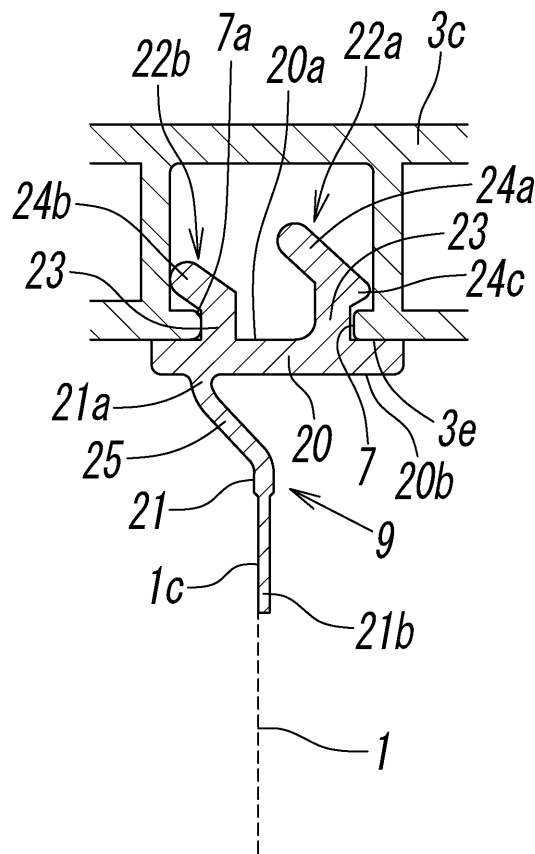
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】 図 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 図 6 】



【手続補正 1 3】

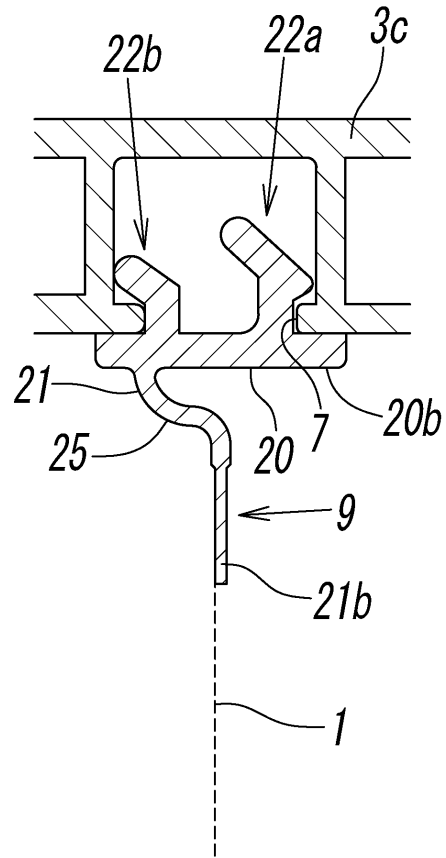
【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【図 7】



10

20

30

40

50